

福屋



六編上

~ 13
3735
11

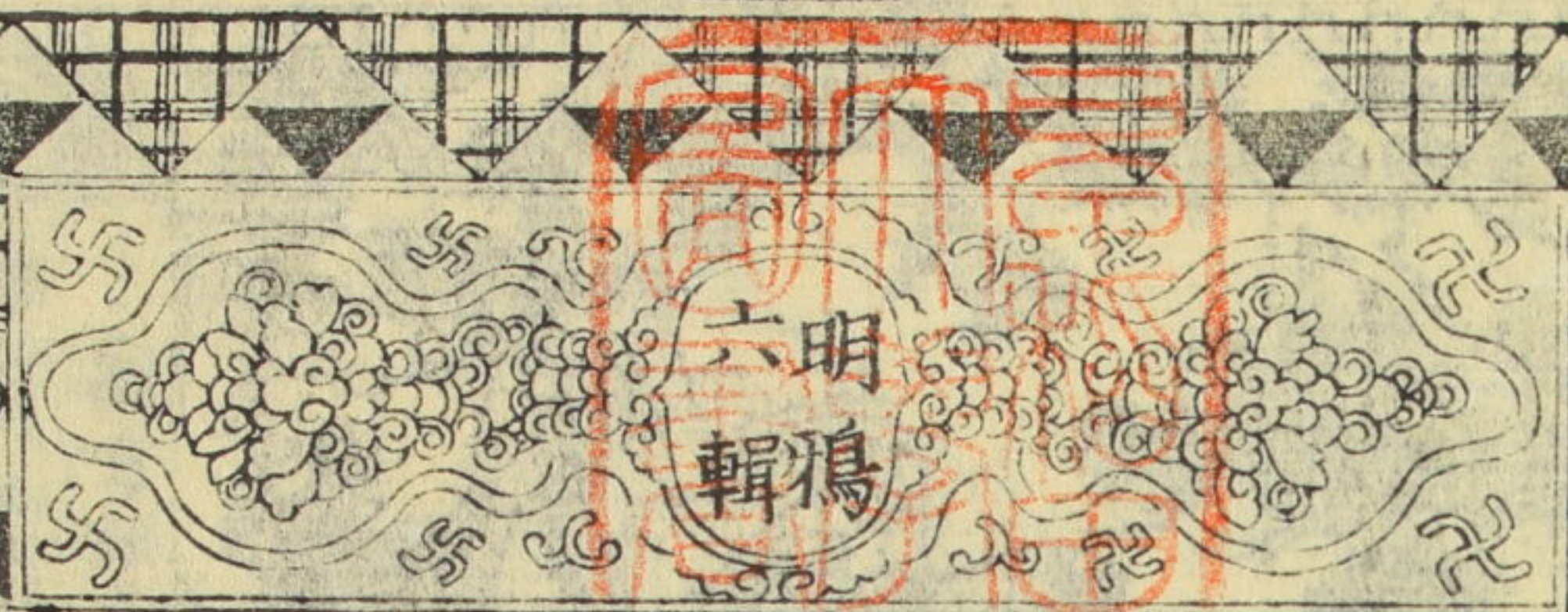


門 へ 13
 號 3735
 本 11

鳥
 鳥の神靈を祀る事一休の扇小雨を枇杷葉湯の紋を貼る
 夢を報て人小忠あり餅を哺て母小孝あり於保乎曾杆里二
 つて悪む此明鴉の編も太虚まのの小説あり忠僕
 孝婦の信義を著一妖術魔法の靈鳥乃蒲小推き執絲
 怨魂へ禪僧の徳小消る仕組ハ追々綴るをれと勸懲の意を
 守るはみまぐ大道の賣藥あり毒もあはば藥にもなる
 然るに是ハ先作者幸のて評判よく鳥の啼ぬ日有
 販ぬ日なりと問屋の怡悦嗣出と四編五編もつと猶六編の
 註文小鳥の行水急行く又一快脱稿了



一
 西
 五十



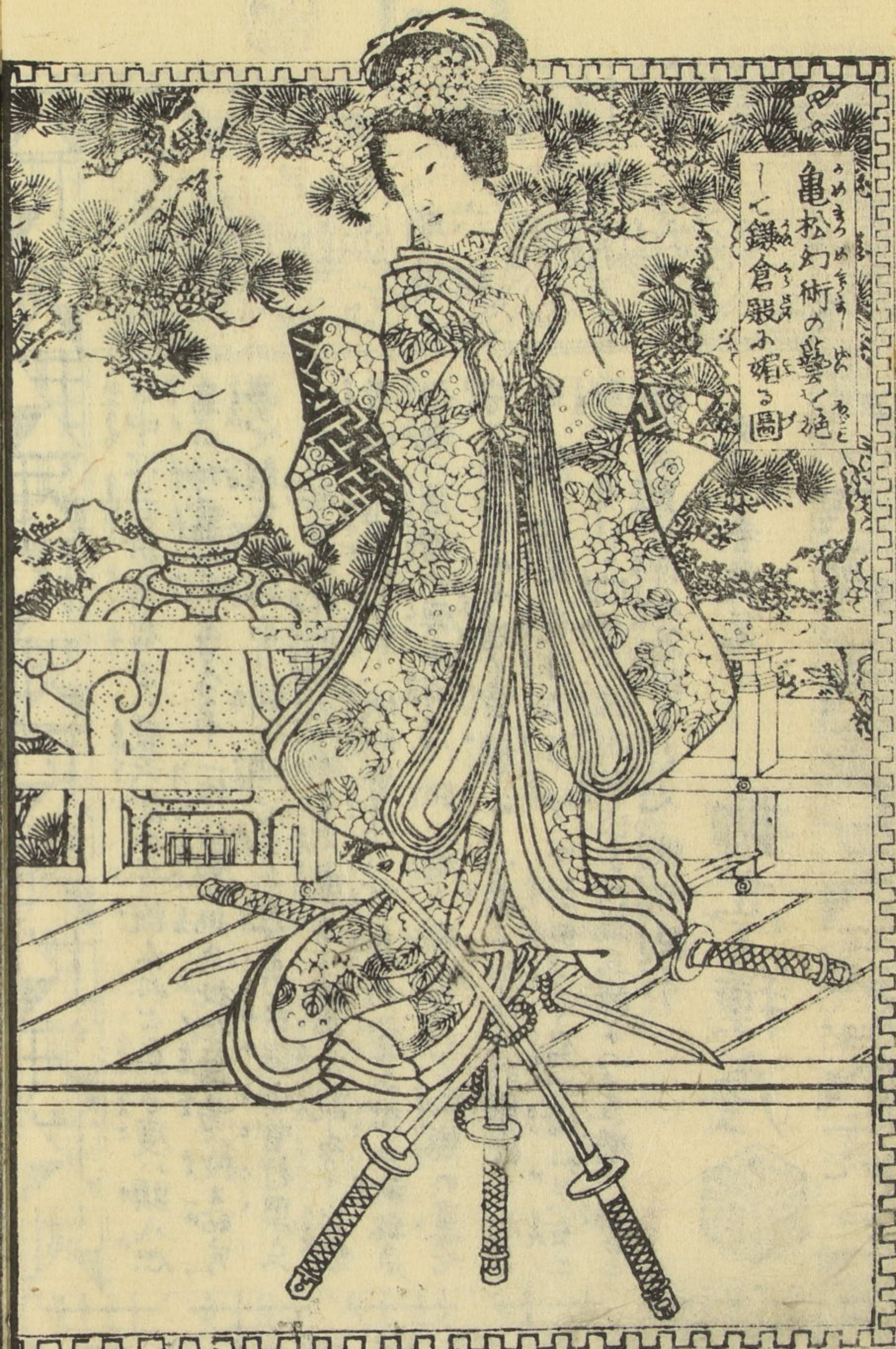
日中に三足の鳥有と歴天記の妄説ふれど鳥百度の頭八咫
 鳥の神靈を祀る事一休の扇小雨を枇杷葉湯の紋を貼る
 夢を報て人小忠あり餅を哺て母小孝あり於保乎曾杆里二
 つて悪む此明鴉の編も太虚まのの小説あり忠僕
 孝婦の信義を著一妖術魔法の靈鳥乃蒲小推き執絲
 怨魂へ禪僧の徳小消る仕組ハ追々綴るをれと勸懲の意を
 守るはみまぐ大道の賣藥あり毒もあはば藥にもなる
 然るに是ハ先作者幸のて評判よく鳥の啼ぬ日有
 販ぬ日なりと問屋の怡悦嗣出と四編五編もつと猶六編の
 註文小鳥の行水急行く又一快脱稿了

柳亭種彦



月鳥一編

龜松幻術の藝を施す
鐵倉殿小唄の圖



鐵倉管領

足利左兵衛督持氏郷

口連三葉の龜松が
悲魂の昔語のまゝに
下巻術のつづり前
小加へくえぬふる

月鳥六番



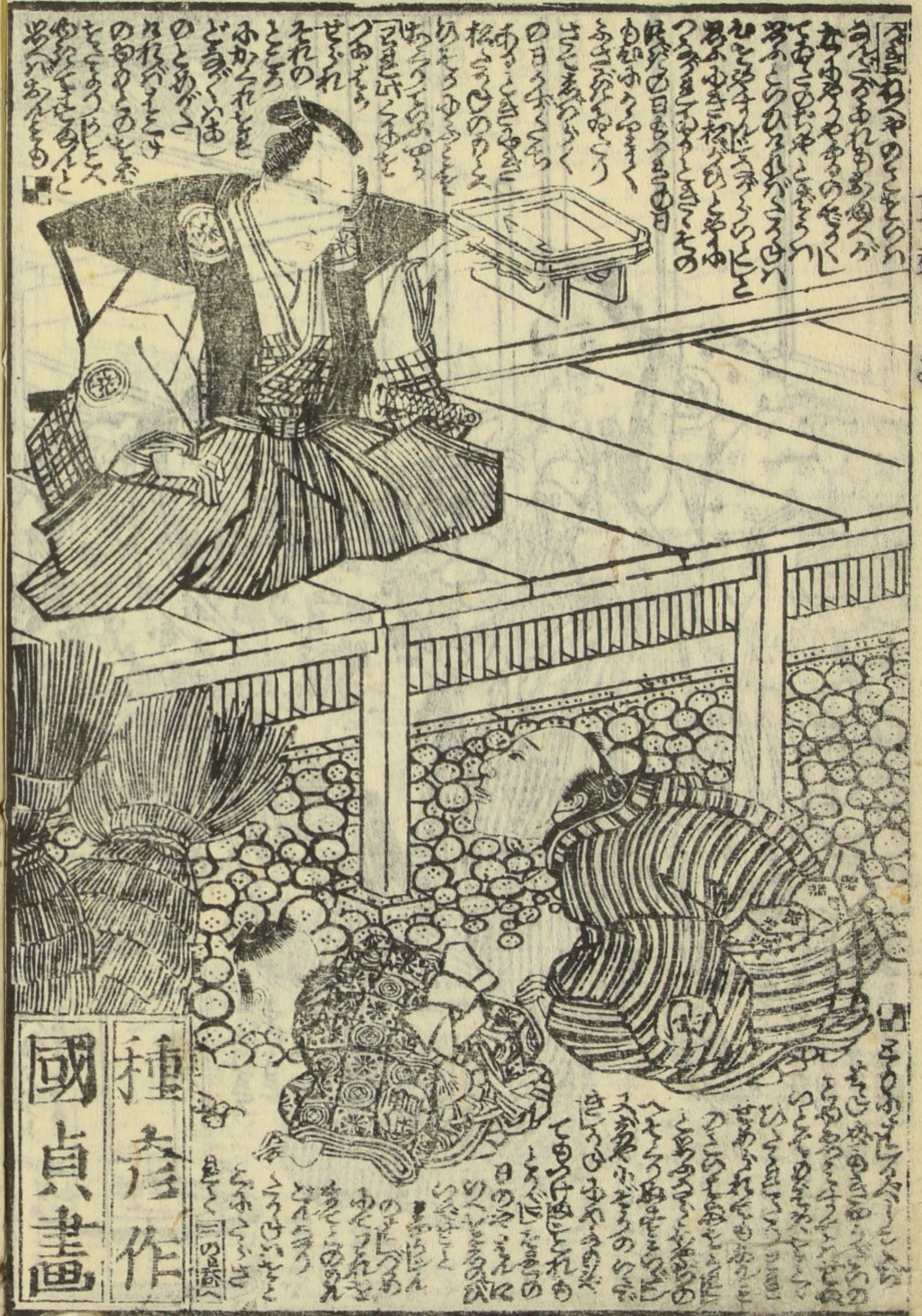


龜松蛇責不遺圖
 國貞申有のま
 描て惨しく且口
 の不祥々々演戲
 めいさる体又換つ

持氏
 北之方
 川淀御前







此の物語は、
 昔の物語に
 似てゐるが、
 内容は、
 全く異なる。
 作者は、
 江戸時代
 の末葉に
 活躍した。
 彼の作品は、
 多くの人々
 を魅了した。
 この物語は、
 その代表作
 の一つである。
 読者は、
 この物語を
 読んで、
 多くの教訓
 を得ることが
 できる。

種彦作
 國貞畫

實母散

本家
 此の物語は、
 昔の物語に
 似てゐるが、
 内容は、
 全く異なる。
 作者は、
 江戸時代
 の末葉に
 活躍した。
 彼の作品は、
 多くの人々
 を魅了した。
 この物語は、
 その代表作
 の一つである。
 読者は、
 この物語を
 読んで、
 多くの教訓
 を得ることが
 できる。

此方史、世人の
 心を動かす
 物語である。
 作者は、
 江戸時代
 の末葉に
 活躍した。
 彼の作品は、
 多くの人々
 を魅了した。
 この物語は、
 その代表作
 の一つである。
 読者は、
 この物語を
 読んで、
 多くの教訓
 を得ることが
 できる。

新局九尾傳

四編
 編者
 梅蝶樓國貞重
 為水春水作

鼠洞通夜譚

柳早穂
 梅蝶樓國貞重

信列鼠の里の
 和泉小僧と
 少年鎌倉殿
 の北近三浦
 二階堂
 諸大家の
 財寶と盗と
 名を高く
 せしめし
 物語
 和州山辺氏の
 貞齋の事蹟
 小綴合せ

